



一か月半ほど過ぎて

令和8年度がスタートして、およそ一か月半ほど過ぎました。新しいクラス、友だち、新しい先生と、こどもたちの環境は激変しました。最も環境が大きく変わった1年生も、時には涙が出ることもあります。大変落ち着いた表情で楽しそうに過ごすことができます。この環境をつくることのできた要因は様々あると思いますが、この一か月あまりに重点的に取り組んだ縦割り活動があるかと思っています。登校後の準備など、6年生が毎朝1年生の教室に行き、1年生のお手伝いをするなど、学年を越えた積極的な関わりとこどもたちの自主的ながんばりがあったからかと思っています。

本校では1年生を迎える会を全校一斉に行うのではなく、縦割り班活動(1つの班が25, 26名の24班)で行います。それぞれの班がそれぞれの場所で、それぞれの班に所属する1年生を迎え、一緒にゲームをしたり、上級生からのプレゼントや手紙をもらったりします。全校一斉615名で行う会の設定の良さもあると思いますが、少人数で



行うことで、1年生にとっては、自分と関わる上級生をより身近に感じ、安心感をもって生活することにつながります。また上級生、特に1年生を迎える会を主宰する6年生にとっては、1グループあたりの6年生が少人数になるので、6年生全員がそれぞれの場所で確実にリーダーシップを取らないといけないこととなります。このように、あえて少人数の取組を行うことが、こどもたちの経験値を増やすこととなり、技能的にも、そして心の面での成長もあるかと、がんばっているこどもたちから感じました。

避難訓練での出来事～「リフレーミング」

先日、避難訓練を行いました。火災発生時の避難についての訓練でした。当日朝の訓練前、低学年のこどもたちが「こわい」と言い、少し涙ぐむなど心理的影響が出ていました。その時に、担任の先生から「みんなでいっしょに行動しようね。それから、こわいと思っているということは、みんなが真剣に考えている証拠だよ。」との声かけがありました。すると、こどもたちは一気に落ち着いて、きちんと訓練に参加することができました。

「訓練だから大丈夫だ」とか「こわくないよ」という励まし方もあるかもしれませんが、本校担任の先生のように、こどもに寄り添いながら、こどもの感じていることへの肯定的評価は、本当に大事なことだと学ばせていただきました。その際、「リフレーミング」を思い出しました。

「リフレーミング」とは、「物ごとの見方を変えること。自分の悪いところが気になって自信がなくなってしまう時、味方を変えて前向きに考えてみること」です。例えば「落ち込みやすい」→「まじめに考える」とか、「しつこい」→「粘り強い」、など、見方、とらえ方を変えるだけで、180度見え方が変わります。

担任の先生の意図するところにはひょっとしてそぐわないかもしれませんが、こどもたちに、ものの見方を変えて、ポジティブな気持ち、自己肯定感を高めることができるようになってほしいこと、また同時に、友達の良い面を見つけたり肯定的に受け止めたりできる感性、心を育てるような取組を進めていきたいと考えています。



学校経営の根本にある思い

これからの社会を生きる子どもたちにどのような力をつけさせてやったらいいのか、という視点をもって、学校経営の根本にある思いについて4点、お伝えさせていただきます。

教育の目指すところ **自立と社会参加**

○笑顔、あいさつ

子どもたちが笑顔で過ごせる学校づくりの基になるのは、学校で子どもたちを迎える教職員の笑顔です。そのためには、気持ちのよいあいさつ、返事など**大人が率先して行うこと**、当たり前のことかもしれませんが、大事にしていきたいと思っています。

そして、ご家族のみなさん、地域のみなさん、教職員が笑顔で、同じ方針同じ方向を向いて笑顔で手を取り合う姿、**大人の笑顔が、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる糧**になり、子どもたちの心を耕す基盤になると思います。

○～未来を見据え～ **合意形成能力**

***新学習指導要領論点整理より・・・「当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる。」**

国が言うところでは、10年、15年先にはどんな社会になっているのか、ある程度予測ができるそうです。しかし、科学技術の進展、価値観の多様化、グローバル化した社会においては、30年、40年先には、どんな社会になっているのか予測ができないそうです。現在ある職業のうち、かなりの比率のものがAIにとって代わられたり、新しく開発されるであろう技術により自動化されたりするなど、人間の価値観の根底に関わる予測困難な未来が待ち受けていることは、想像に難くありません。また、世界の人口が増える一方に対し、日本の人口は減っていきます。このような状況において、日本人だけでは日本の国力を維持していくことは困難です。外国の方々の力を借りなければ日本を支えることが出来ない時代になっていると予測されます。言葉、文化が違う方々とコミュニケーションをとりながら社会を担っていくために必要な力は、**自らの思いを積極的に発信できる「自己発信」する力、そして他者の思いをしっかり聞きながら受け入れる「受容力」、その中で合意形成を重ねながら新たな価値を生み出す力**であると考えます。社会の中核を担って活躍する年代は、40代、50代、60代と考えた時、今、まさに目の前にいる子どもたちが、30年後、40年後の社会の主役となります。未来を見据えた時に、子どもたちにつけさせたい力を、このような背景を思いながら考えています。

○ルールを守る

昨年度の夏休みに古志原の子どもたちについて、教職員みなで分析し「**古志原っ子に身につけさせたいこと、がんばらせたいこと**」として、3項目挙げましたが、そのなかのひとつに「**ルールを守る**」ということがありました。廊下を走る、○○が出来ないなど、子どもたちの学校生活において、ルール、約束事が守れない、守りにくいという姿があります。

生徒指導提要に「**児童・生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して～**」という文言があります。学校を社会の縮図、これから社会参加していく子どもたちの学びの場としてあるならば「ルールを守る」ということを学び体得するということは最も大事なことだとも思います。ただ「ルールを守れ」というだけではなく、なぜ、ルールを守らないといけないのか、その理由を子どもたちに落とし込みながら、子どもたちが納得しながら学んでいけたらと思っています。「ルールを守る」ということは、他者を大事にすることにより社会的秩序を保ち、最終的には、他者も自分も幸せになれること、自分を守るためのものであるということを感じ、理解してほしいと思っています。

○自己決定しながらやると決めたことを粘り強くやり続け、やり遂げる力

三日坊主という言葉があります。すぐあきらめたり、飽きっぽかったりすることを揶揄した言葉ですが、見方を変えたら、ものすごく嫌なことでも、頑張って三日続けられた、やり遂げられた、ということはすごいことだと思います。三日続けられたら、一週間がんばれる。一週間がんばれたら、三週間がんばれる。三週間がんばれたら、一ヶ月がんばれる。そうしたら、半年、一年・・・ずっとがんばれる。朝、決まった時間に自分で起きる、毎日〇分、または〇時間は必ず勉強する、今やっているピアノの練習を毎日〇分はする、少々しんどいことかもしれないけど、自分のためになると思うならなんでもいいと思います。

子どもがやり続けるということを自分自身で決め、そこでがんばっている姿を認め励まし応援しながら、子どもたちのやる気、自己肯定感を高めていきたいです。